



日
本

の源流再発見

File 4

さいくう平安の杜

三重県多気郡明和町 齋王のみやこ 齋宮



古代から中世までの660年にわたり、伊勢神宮の天照大神に仕えた「齋王」が暮らした「齋宮」は、この地にありました。1970年からの大規模な発掘調査でその存在が確認され、1979年に国の史跡「齋宮跡」として指定されました。そして今、「祈る皇女 齋王のみやこ 齋宮」として、日本遺産に認定されています。

ロマンあふれる幻の都

齋宮に暮らした齋王とは、国の平安と繁栄を祈るため、天皇の代わりに伊勢神宮の天照大神に仕えた特別な皇族の女性のこと。天皇が即位すると未婚の内親王または女王*のなかから儀式によって選ばれ、京から齋宮に向かいました。齋宮は齋王の宮殿と総勢500人以上が執務した役所がある一大都市で、遺構から碁盤目状の土地区画がなされていたこともわかっています。

近鉄山田線の齋宮駅に隣接しているのが「いつきのみや歴史体験館」です。木造の建物は平安時代の貴族の

住まいである寝殿造りと古代の役所をモデルに、当時の建築技術を生かし、くぎなどの金物を一切使わず建てられています。ここでは貝殻を合わせる「貝覆い」や、古代のすごろく「盤双六」^{ばんすごろく}「蹴鞠」^{けまり}など当時の遊びを体験可能。機織りや草木染め、古代米づくりなどの体験行事も開催しています。なかでも一番人気は、平安装束の試着体験。十二単^{じゅうにひたえ}でも30分ほどで着られるそうですが、重さが約10キロということなので、覚悟してお試しください。

歴史体験館の北側の「齋宮跡歴史ロマン広場」には、齋宮史跡全体の10



いつきのみや歴史体験館

分の1模型があります。まだ一部しか発掘できていないため、建物の再現は一部にとどまっていますが、当時の様子が精密に再現されています。

平安時代前期(9世紀)の齋宮の中心的な施設だった「寮庁」の主要な建物が、発掘調査で発見された場所に実物大で再現されているのが「史跡



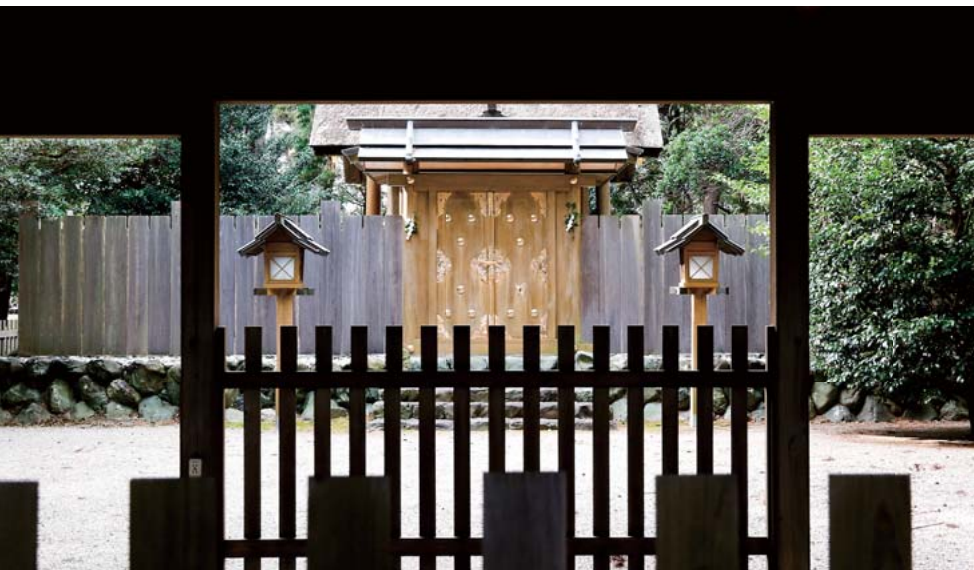
▲ いつきのみや歴史体験館

天皇、皇后、斎王しか乗ることができなかつたとされる輿の模型。実際に乗って写真撮影もできます



▲ 斎宮跡歴史ロマン広場

東西約2キロ、南北約700メートルという斎宮全体を10分の1で再現した模型。発掘調査の成果を反映し、正確に再現されています



▲ 竹神社

1911(明治44)年、旧斎宮村にあった25社の神を合祀して誕生しました。斎宮の御殿があった場所ではないかともいわれています



▲ 斎王の森

地域の人々に守られてきた斎宮跡のシンボルゾーン。ここに建つ樹皮がついたままの「黒木の鳥居」は素朴で原始的な珍しい鳥居です

公園「さいくう平安の杜」です。バーチャルリアリティー体験ができるタブレット端末があり、当時の儀式の様子などを“見る”ことができます。平安の杜の南側には斎王の宮殿があったと考えられている「竹神社」が、北側には「斎王の森」と呼ばれ大切に守られてきた神域があります。

発掘の成果、斎王や斎宮について詳しく紹介しているのが「斎宮歴史博物館」です。出土品はもちろん、斎王が伊勢神宮で行う祭祀の様子を再現したマジックビジョンや資料、模型、映像などで、斎王の役割や当時の様子を

垣間見ることができます。

斎宮を巡るのに役立つのがスマートフォンアプリ「斎宮ガイドアプリ」。目的地までマスコットキャラクターの「めい姫」が案内してくれたり、スタンプラリーがあったりと、旅を一層楽しめるのではないのでしょうか。

※ 天皇の娘以外の皇族女性

ココに注目

歴史体験館前にある「いつき茶屋」では、王朝時代の食生活をしのぶことができる3段重ねのお弁当「斎王の宝箱」を食べられます*。
* 要予約：明和町観光協会 (0596-52-0055)



日立グループ事業所紹介

今回訪れた三重県には日立金属 桑名工場があります。桑名市は日本の二大鋳物産地の一つといわれており、桑名工場でもひょうたん印が商標登録された1912年以降、継手(配管機器)の伝統が受け継がれ、現在は、世界有数の継手工場としての地歩を築いています。

日立金属株式会社 桑名工場 三重県桑名市大福2番地
<http://www.hitachi-metals.co.jp/>